

最前線 教育

The Front Line
of Education

子どもの成長と 心のケア

子どもの問題行動に大人は
どのように対応すべきか

子どもに対して「すくすくと健やかに育ってほしい」と思うのは、どの親にも共通する願いです。しかし、校内暴力や不登校など、子どもの問題行動は近年、少子化が進んでいるにもかかわらず増加の傾向にあります。子どもを取り巻く、家庭と学校、カウンセラーによるサポート体制の充実が急かされています。

子どもの発達過程で見られる問題行動

子どもたちは本来、豊かに発達する可能性を秘めた多くの蓄えを持ってこの世に生まれてきます。その蓄えは、生育する環境でさまざまに刺激を受けて多様に花開き結実していくはずのものです。一般にはこの過程を「発達」と呼びます。子どもの発達は固有の遺伝子情報によるものではありません。人と人の間で成長するものです。

保護者や教師など大人の役割は、時には風や光となり、あるいは栄養豊富な土壌や水となってこの蓄えにかかわりながら育む点にあります。

子どもたちは、自分たちを取り巻く人的、物理的、社会的環境からの影響を一方的に受け止めるだけではありません。自らも積極的に周囲に働きかけて成長します。やがてこの過程で社会化や個性化が進んで、子どもは一人の有為な個人としてその資質を磨き、自らをさらに発展させるのです。

発達過程もすべてが順風満帆というわけにはいかないでしょう。時には順調さを欠く場合もあります。これらはいわゆる問題行動の中に看取うことができます。

例えば、児童や青少年について近年話題になることといえば、定着しつつある少子化の一方で増

え続ける不登校や校内での暴力行為であり、一時のピークは過ぎたとはいえ、依然根強く学校内外にはびこるいじめや少年非行、そして幼児・児童の虐待、薬物乱用や自殺の問題です。最近では、ADHD(注意集中困難多動性障害)やLD(学習障害)なども格別の援助の必要性が認識されるようになっていきます。

人間は条件さえ整えば健やかに発達するはずなのですが、このような問題行動が多々生じるということは、個人の健全な発達を阻害する状況が私たちの社会にあり、それがさらに増幅していることを暗示しているようです。また、多くの場合、周囲の援助によって改善が十分に期待できることも示唆されています。

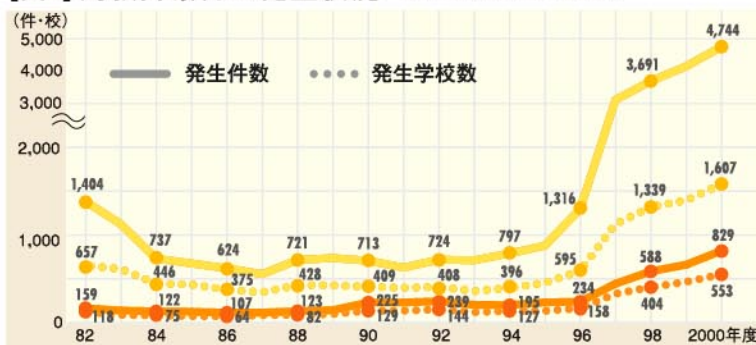
増加の一途をたどる問題行動とその対応策

例えば、生徒間の暴力や対教師暴力のここ20年の経年的変化を【図1】と【図2】に示してみまし

【図1】生徒間暴力の発生状況 (公立学校:学校内・学校外)



【図2】対教師暴力の発生状況 (公立学校:学校内・学校外)

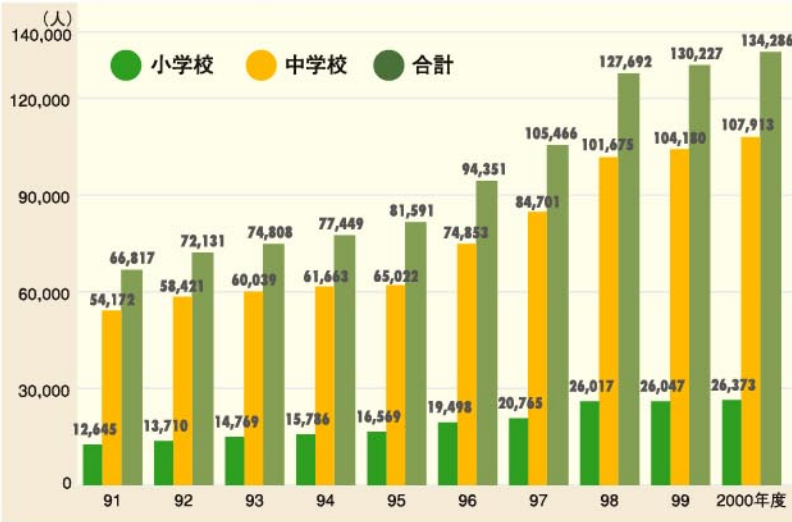


た。これらの図からも、学校にまつわる暴力的傾向が近年上昇に転じていることが分かります。人間にとって攻撃性は他者を損なうといった否定的な面ばかりではありません。困難な事態に

● 中学校
● 高等学校

※図1~3は「生徒指導上の諸問題の現状について」文部科学省(2001年12月)から

【図3】不登校児童生徒数の推移



加しているわけではありません。【図3】は10年間にわたる不登校の児童生徒数の推移を示したものです。人口学的にはこの学齢期にある子どもの総数は確実に減少しているのですが、不登校とみなされる児童や生徒の数は減少するどころか、かえって増加しています。学校や教育行政の側も手をこまぬいてこの事態を見つめていたわけではありません。パイパスの教育機関(例えば適応指導教室)などの設置や、心の教育相談員の配置がなされています。文部省はスクールカウンセラーとして臨床心理士等を任用することとしました。さらに1995(平成7)年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、このケアが社会の関心を呼びました。兵庫県に關していうならば、その後ここ数年の間に、ほとんどの中学校にスクールカウンセラーが導入されています。個々の学校でのケースを見る限り、その役

挑戦するとか、困っている人のために勇気を奮い起こすなど積極性と解すべき一面も含まれます。思春期や青年期はこのような攻撃性の発露に翻弄されながらもどうにか自らの力で自身を統制していく時期でもあります。私たちは攻撃性を破壊的な方向に方向けないことばかりを気に掛けるのではなく、むしろそのパワーを建設的な方向に向けることに関心を持つべきでしょう。

割は決して軽んずべきものではなく、一定の成果を上げているようです。しかしながら、このスクールカウンセラー制度やほかの児童・生徒支援事業も、その役割を担う人が学校に常駐して事に当たるといふところまでは来ていません。多くの熱意あるカウンセラーは精一杯の努力を重ねているのですが、その活動時間や内容が限られた中では、家庭や学校のもろもろのニーズに対応することは必ずしも容易ではありません。このシステムもまた発展の途上にあるといえます。

家庭、学校、カウンセラー 多方面から子どもを支援

教育相談やカウンセリングが社会的に認知されてきたことにより、児童・生徒の支援活動が活性化されてきました。しかし時として、カウンセリング頼みの危うさを感じる場合もあります。困ったことがあれば、カウンセラーにすべてを委ねてしまう保護者や教師がまだ少ないのは幸いです。困難に直面する子どもにとって実に有効で強力なサポーターである保護者や教師とカウンセラーが子どもを支援のために相互に協力すれば、その有効性はより増大します。そして、このような援

助システムを形成するためには、教育現場と子どもとの発達や病理に精通し、対応できる人材の育成が急務にして不可欠となります。兵庫教育大学では開学時から、さまざまなコースを設けて総合的に子どもの発達と教育を支えるシステムを構築してきました。2000年からは学校心理学、教育臨床心理学、発達障害臨床心理学および学校精神保健学の4つの分野からなる昼夜開講制の教育臨床心理コースを新設。教育現場をはじめとする学外関係諸機関と連携しながら教育臨床心理学の専門家の養成と研究に当たっています。

【わーど解説】

※1 ADHD (Attention Deficit Hyperactivity Disorder: 注意集中困難多動性障害)

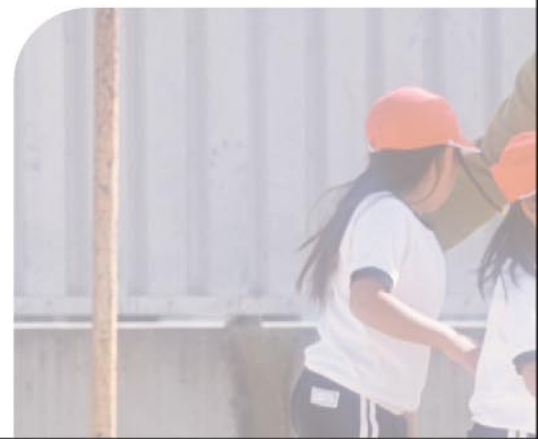
多動性障害とも呼ばれる。課題への注意持続が弱く1つの活動に集中できない、気が散りやすいなどの注意障害と多動を基本特徴とする障害。不注意優位型と多動衝動性優位型、混合型に分類される。心理療法も欠かせないが、メチルフェニデートなどの薬物療法とともに、多動・不注意の行動変容には行動療法も用いられ、その改善に効果を上げている。

※2 LD (Learning Disabilities: 学習障害)

一般知能に大きな障害が認められないにもかかわらず、認知障害や行動障害を示す様態を指す。特に読字、書字、算数などの学習面に障害が現れるが、プロセス訓練や系統的指導など、適切な対応によって改善が期待できる。

※3 スクールカウンセラー (School Counselor)

学校において心理学的援助を行うもののうち、児童・生徒や保護者に対するカウンセリングやガイダンス、教師に対するコンサルテーションを中心機能として果たす専門家。日本では臨床心理士を中心に、医師や児童心理学の専門家などが担当することが多い。



子どものSOSに対応できる 人材の育成をめざして

兵庫教育大学の研究と取り組み

子どもの示すさまざまな問題行動は起こらないに越したことはありません。子どもに問題行動を生じさせる原因は園や学校にあるか、家庭にあるか、両方にあるか、そしてまれには子どもにあるかでしょう。

学校側に存在する原因を生じさせない教育(これを「予防教育」ということにします)の開発がますます重要となってきました。対人関係スキルやストレス処理スキルを獲得させる研究など、予防教育に関する研究を重視しているのが本講座の特徴です。

また、子どもが示す微弱的な変化や異変(SOSのサイン)にただちに気づき、適切な対応を講じることが出来る教師の力量と学校の管理・運営システムが大変重要です。さらに、問題が重篤になっている場合にも、問題の的確な査定や診断を行い、心や行動上の問題に適切に対応できる教師の力量と学校の体制が重要です。こう

【学校心理学分野】



Shiomio Kunio
塩見邦雄教授

児童生徒はさまざまなストレスを持ち、例えば勉強への意欲低下、登校拒否、心身症などの症状を表してきます。すべての教師が児童生徒に対して予防教育的な「心の教育」を実施する資質・能力を持つことが必要であることを考慮し、児童・生徒の思考様式、知的状態、教科の到達度、性格、行動様式、対人関係を中心とする自己や社会性の発達等に関する指導や支援、診断ができるよう、研究をしています。

発達検査用具の習熟実習



【教育臨床心理学分野】



Natsuno Yoshiji
夏野良司教授

地域援助の一環として、心の悩みのカウンセリングを実施



来談者中心、精神分析学、短期心理療法、家族療法、認知行動療法、動作療法等、幅広く臨床心理学に関する専門性を高められるように工夫されています。とりわけ、全国からの派遣教員を多く受け入れる臨床心理士指定コースとしての特色を生かすために、学校関係機関や地域との連携を強め、学校現場のニーズに呼応した実践研究を推進。研究会や研修会、また論文各誌での成果のフィードバックに心掛けています。

【発達障害臨床心理学分野】



Fujita Tsugumichi
藤田継道教授

発達障害児者および、その家族や教師、福祉機関の職員等に役立つ臨床研究を展開しています。基礎的な認知・言語・コミュニケーション行動や社会的スキル・余暇スキルの形成に関する研究、激しい問題行動の解消に関する研究などが主要テーマです。最近では、ADHD、LD、広汎性発達障害、あるいは不登校、いじめ、学級崩壊も研究、臨床の対象となってきました。



自閉症生徒の余暇活動への教育臨床的支援

【学校精神保健学分野】



Suzuki Hiroshi
鈴木啓嗣教授

健康教育啓発資料の開発研究



学校における児童・生徒および教職員の精神健康への寄与を目的に、研究や活動を行っています。対象は多岐に及び、中でも学校へ行けない、社会に出て行きづらい、あるいは同年輩集団との間に困難があるなどの社会生活に関連のある問題、PTSDに代表される暴力や災害などに伴う外傷的な精神障害に関する問題、発達障害に伴った行動上の問題、困難な状況にある教職員のメンタルヘルスなどに取り組んでいます。

兵庫教育大学では教育臨床講座を中心に、生徒指導講座、幼年教育講座、障害児教育講座、附属発達心理臨床研究センターなどで、子どもの心のケアを担う人材の育成に取り組んでいます。県立教育研修所や県立障害児教育センター、各地の適応指導教室など学外の機関とも連携して研究を進めています。とりわけ、教育臨床講座では学校心理学、教育臨床心理学、発達障害臨床心理学、学校精神保健学の4分野で、教育・研究・社会活動を行っています。

した対応のできる力量を持ち、かつ学校体制を作り上げられるノウハウを身に付けた教師を養成できるような教育システムを持っているのも本講座の特徴でしょう。

もちろん、問題を持つに至った子どもの救済や障害を持った子どもへの支援に関する研究、教師支援の研究も行っています。「教育臨床心理コース」で学んだ教師が現場に帰ってから、子どもの問題行動への対応やその予防に大いに貢献するものと期待されます。

気になる 子どもの様子

こんなとき
どうすればいい？

Q1 子どもの他者への思いやりをはぐくむためにはどうしたらよいのでしょうか。

A 子どもの他者への思いやりを育成していくためには自分の行動は自分で決めるという自律性が育成されていることが前提となります。そのためには、相手の気持ちに目を向けさせたり、子どもが相手の気持ちについて考えるきっかけとなるような「言葉がけ」を頻繁に行う

兵庫教育大学大学院学校教育研究科の
各コースで得られる受験資格など

【教育臨床心理コース】

●臨床心理士(受験資格)

(財)日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格で、有資格者は「心の専門家」として学校現場(スクールカウンセラー)や保健医療、福祉、司法等の多方面で活躍。

詳しくは <http://www4.ocn.ne.jp/~jcbcp/> 参照

【生徒指導コース】

●認定カウンセラー(受験資格)

日本カウンセリング学会が認定する資格で、有資格者は「教師カウンセラー」として教育現場で活躍。

詳しくは <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacs2/> 参照

【すべてのコース(条件付)】

●学校心理士

日本教育心理学会ほか3学会が連合して認定する資格で、子どもたちの心のケアを有効に行うことができる人材の育成をめざすもの。

詳しくは <http://gakkoushinrishi.jp/> 参照

●臨床発達心理士

日本発達心理学会ほか3学会が連合して認定する資格で、発達の中で起こるさまざまな問題を的確に把握し、それを解決できる人材の育成をめざすもの。

詳しくは <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsdp/> 参照

◎問い合わせ先

兵庫教育大学教務課教務企画係

☎0795・44・2042または教務課専門職員(大学院教務担当) ☎0795・44・2040

ことが必要です。納得がいかに

いことに対しては、同調しなくてもよいことを指導し、自分の見解を主張するように優しく丁寧に指導していきます。そのことは、自己表現の場として重要な意味を持ちます。

このように相手の行動の意図を読み取ったり、自分の考えていることに筋を通し、相手に対して説得することで状況を変化させることができるという経験を重ねていくことは、自分に自信を持つことにつながります。そして、そのことが他者への思いやりの育成のための基本となります。

Q2

2歳の誕生日が過ぎたので

すが、言葉が出てきません。どうすればよいか教えてください。

A 一番多い質問ですね。言葉音声表出言語が出るようになるためには、①人の話す声や生活音、動物や鳥の鳴き声などが聞き分けられなければなりません。②そして、話された単語音が指し示す事物・行為・状態などに対応関係が分かるようにならないければなりません。そのためには、子どもが触ったり、見ている物の名前などを頻繁に言ってあげることです。③子どもが発声することも必須の条件です。高い高いなど子どもの喜ぶことをいっぱいしてあげれば、またやってみて声を出し始めたりします。④要求を他者に伝達することも覚えなければなりません。例えば、大好きな玩具に手が届かないときは、お母さんの目を見て、指さしや発声で要求したりするようになります。⑤言葉の始まりの基本である音声模倣を大切にしましょう。⑥指さしや発声、音声模倣は周りの人が心から喜びを表し、力いっぱい褒めてあげましょう。⑦こうして、言葉が数語出るようになれば、言葉はどんどん増えていき、二語文、三語文になっていくでしょう。⑧音声がでない子どもの場合には、身振りを使わせたり、写真や絵カードを選択させて要求表現をさせるようにしていきます。

出始めたりします。④要求を

他者に伝達することも覚えなければなりません。例えば、大好きな玩具に手が届かないときは、お母さんの目を見て、指さしや発声で要求したりするようになります。⑤言葉の始まりの基本である音声模倣を大切にしましょう。⑥指さしや発声、音声模倣は周りの人が心から喜びを表し、力いっぱい褒めてあげましょう。⑦こうして、言葉が数語出るようになれば、言葉はどんどん増えていき、二語文、三語文になっていくでしょう。

⑧音声がでない子どもの場合には、身振りを使わせたり、写真や絵カードを選択させて要求表現をさせるようにしていきます。

ます。

Q3 思い通りにならないと、パニックになって大声で泣き叫んだり、人を叩いたり、物を投げたりし、困っています。どう対処すればよいでしょうか。

A これも大変多い相談です。対応の方法として、まず、このパニックの機能分析を行います。「したくない」という回避の機能なのか、「したい(欲しい)」という要求の機能なのか、注目引きの機能なのかなどです。回避の機能の場合であれば、させなければならぬ課題を易しくして、やり遂げさせ、褒めてあげればよいのです。要求の機能で

あれば、正当な要求に対してはパニックでない要求の仕方(写真選択、身振り等)を教えます。注目引きであるなら、パニックを起こさない時に大いに相手をしてあげればよいのです。パニックを起さず、収まらなければ、機嫌を取らず、収まるまで静かに待ちます。パニックは始めて起こった時の対応が後の子どもたちの行動を決めてしまいます。登校渋りや不登校も第一回目の時の対応が後の子どもたちの反応を左右することが多いようです。

●教育相談を実施しています

◎附属発達心理臨床研究センター
(10ページ参照)

◎大学院神戸サテライト心理教育相談室
(12ページ参照)



模倣と中国文学

中国文学の研究も、古典から現代まで、作家研究、作品研究、文学史や批評理論の研究などと広範囲ですが、目下考察を進めているのは、詩の文体研究に属する「擬古詩」です。

中国の詩の文体（スタイル）は、部立て（ジャンル）で分類しますと、游仙詩、詠史詩、山水詩、田園詩、行旅詩、辺塞詩などさまざまです。ある時、その中に替え歌が多く集められた部立てがあることに気づき、しかも確固としたジャンルを与えられていることに対して、なぜそんなものが疑問に思ったのが始まりです。それが「擬古詩」でした。

替え歌はもともとまねです。すから、近現代の思潮下では注目度が低く、剽窃、贋作、猿まねなどと言つて、一笑に付されています。しかし、昔は必ずしもそうではなかったようです。

擬古詩が現われ始める3世紀から5世紀にかけて、中国の文学史という中世は、模倣も文化を担うものの一つであるという思潮があり、独創と並行して、いわば「まねぶ」とか「温故知新」とかいう理

念のもと、先賢や古典から意味のあるものを教わろうという風潮も支持されていきました。そのような模倣が、芸術のれっきとした制作手法として承認され、活用され、詩形文学においては「擬古詩」として結実していったのではないかと思います。

白に、「崑崙山の峰に住む仙人が、私に玉製の酒杯を送ってくれた」という詩句があります。仙人と自分との信頼関係を詠んだものですが、考察を重ねていきますと、これは古典である後漢時代の「遠方に長期赴任している夫が、私に一反の絹織物を送ってくれた」と



模倣を活用したその昔に立ち返つて調べてみますと、なぜ替え歌に代表される模倣文学が一笑に付されずに評価されていたのかも、おのずと見えてくるような気がします。

唐の時代の李白や近代の鲁迅も、擬古詩を作っています。例えば李

いう有名な詩句をまねたものであることが分かります。李白は、夫婦間の信頼関係を詠んだ古典の表現構造にまねることで、そこに内在する人対人の信頼関係に関する問題点を察知し、仙人と自分との揺るぎない関係にたどり着きます。そして、仙界でない限

り、人間界の君臣関係などは永遠の信頼を獲得したいという見解を提示することになってゆきます。



言語系教育講座(国語分野)教授
©Suzuki Toshio

鈴木敏雄

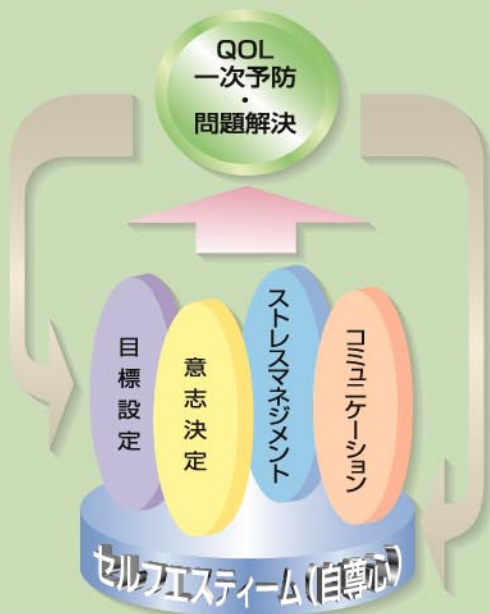
であると言いうことができるかと考えています。

獨創性を追究する一方で、そのような模倣を評価し思考の深化拡充を図つていった先覚たちの営みは、詩文など芸術のありようを考える上でも、興味深い考察対象であると思つています。

The letter from laboratories.

この研究は、喫煙・飲酒・薬物乱用、不慮の事故、性の逸脱行動など、一度事が起これば重大な結果が生じる危険行動を防止するために、児童・生徒用プログラムを開発し、実施・評価・改善を行うものです。プログラムでは行動の危険性も取り上げていますが、むしろ、自尊心を高めたり、意志決定・対人関係などの能力（ライフスキル）を形成したりすることを重視しています。

ライフスキルとは日常生活の課題や問題に適切に対処するための諸能力であり、先に加えて、目標設定能力やストレス対処能力なども該当します。数多くの評価研究から、健康・安全問題の予防や防止には、ライフスキル形成が不可欠であることが分かっています。ライフスキルが「小手先の技術」と誤解されることがありますが、意志決定の例からも分かるように、これは心理社会的能力と言えます。また、計画的な学習により習得で



きるものです。さらに、健康・安全問題全般に関わる一般的・基礎的な能力です。したがって、ライフスキル形成は、さまざまな健康・安全問題の防止に貢献できると期待されています。その期待は、さまざまな問題とライフスキルの間に相連性が認められること、諸問題が相互に強く関連していることが明らかになることにより、一層強い

ものとなっています。いづれにしろ、危険行動防止のためには、各行動を個別に扱うだけでなく、ライフスキルのように各行動に共通するものに働きかける必要があるわけです。

では、ライフスキル形成はどのように進めるのでしょうか。それには2つのルートが考えられます。1つは、ライフスキル自体、例えば、意志決定自体について学習するものです。具体的内容としては、意志決定が必要な場面や状況、意志決定に影響する要因（例えば仲間からの圧力）、適切な意志決定の仕方などが挙げられます。もう1つは、個々の健康・安全問題に即してライフスキルを取り上げるものです。

研究では、子どもたちの危険行動やその関連要因、関連するライフスキルなどに関する実態調査、調査結果や参考文献を踏まえたプログラム開発、および評価などを行っています。さらに、プログラム実施のための教師研修についても研究しています。実際、教育委員会等による研修や校内研修を担当したり、自主的な研修会（JKYB健康教育ワークショップ）を各地で開催したり、本学の

ライフスキル 形成による 青少年の 危険行動防止

学部や大学院の授業でも同様の内容で行ったりしています。

研究は幅広い領域にわたりますから、チームにより進めています。具体的には、危険行動の実態や関連要因の分析は勝野眞吾教授が主に担当し、食生活では岸田恵津助教に、評価では佐藤真助教に協力をお願いしています。



生活・健康系教育講座
(保健体育分野) 助教授
© Nishioke Nobuki

西岡伸紀

また、神戸大学の石川哲也教授、川畑徹朗助教授、兵庫大学の春木敏教授と共同で研究をしています。

危険行動の防止の授業は、重苦しく説教的になりがちです。しかし、このプログラムによる授業は楽しく、子どもたちは極めて積極的に参加してくれます。実施されている教師の皆さんの当面の評価も上々です。

学校教育学部の実地教育について

学校教育学部は、人間の基礎とされる初等教育に携わる教員を養成することを目的としています。教育課程には、子どもの成長と発達についての総合的な理解と広い視野の上に使命感、得意分野、個性を持ち、学校教育の課題に適切に対応できるような教員を育てるための授業科目が置かれています。とりわけ、実践的指導力を養う実地教育科目(教育実習)が多いことは、その特色といえます。

教育実習は教育現場を実地に学修するものであり、教員としての優れた資質を形成するために極めて重要です。兵庫教育大学では、従来の教育実習に新しい工夫・改善を加えた「実地教育」を行っています。できるだけ早い時期から教育に対する目を開かせ、段階を追って教員としての資質を養うため、1年次は見学実習、2年次は観察参加実習、3年次は基本実習、4年次は応用実習と、4年間にわたり18単位に及ぶ多様な実地教育を開設しています。

実地教育を通じて学部生に伝えたいもの・期待すること



附属小学校教諭
実地教育主任
渡 信雄

教育をめぐる諸問題はいつの時代にもある。特に今、成熟社会の訪れとともに価値観が多様化し、大人が生きる方向性を見失い自信を喪失しているかのような様相を呈していることも、その原因の一つであろう。そのような中であって、いや、そうした中であってこそ、教育の果たすべき使命はますますその重みを増してきている。

兵庫教育大学では実地教育を教員養成に関わる教育構想の中核に据えている。実地教育は、実際の教育現場において教育の有り様やさまざまな事を直接、からだ丸ごとで体感できる貴重な場である。

学校には未来を生きる子どもたちが集まってくる。どの子も学校に大きな期待を持って集まってくる。そうした「キラキラ目」の子どもたちとあなたが対等な関係で気持ちを受け合い寄り添いながら、同じ方向を向いて歩いていくことのできる学校という場は、本当にステキなところである。

実地教育という機会を通して、教育という営みの醍醐味をぜひ味わっていただきたい。将来は子どもと共に歩いてほしい。私は今後も子どもと共に歩いていきたい。

学校は、子どもは素晴らしい



学校教育研究センター
実地教育支援研究部門助教授
別惣淳二

実地教育を通じて学生に期待することは3つあります。1つは、子どもを教育することの難しさを実感してほしいということです。子どもに教科等を教える経験は塾や家庭教師でもできますが、責任を持って子ども一人ひとりを人として育てる難しさは、実際に学校現場で子どもたちを教育する経験を積んでみないと実感できません。

2つめは、教師として成長していく上で、子どもからの反応に学ぶ意欲と他者の意見に耳を傾ける謙虚さが如何に大切かを理解してほしいということです。子どもからの反応は自分の教育実践を省察するきっかけを与えてくれます。また、そうした子どもを含めた他者の声を謙虚に受け止められる姿勢が教師には求められます。

3つめは、実地教育の経験から今後の自分の学習課題を発見し、それを後の大学の授業に持ち込んでほしいということです。実地教育で得た自己の教育実践上の課題について理論的に意味付けながら整理していく場が大学の授業であると考えれば、実地教育は教育実践の場でしか学べないことを身に付けるとともに、教師として成長・発達を遂げていくための自己探究課題を発掘する場であると思うのです。

実地教育で自己研究の課題を発掘



うれしの交流点

「スクール・パートナーシップ事業」 のご案内

学校現場の課題や専門的な研究について
兵庫教育大学の教授らが「出前講座」します

兵庫教育大学では今年10月から、県内の学校などに教授らを講師として派遣する「スクール・パートナーシップ事業」をスタートしました。主に学校教員、児童・生徒、保護者を対象に「教員の資質向上」「教育の質的向上」「地域内教育の活性化」「児童・生徒等の学習意欲の向上」の4つの柱に沿った183の講座テーマを用意しています。



● 派遣依頼の方法

①講義テーマを一覧にしたパンフレットを請求してください②パンフレットでご希望の講義テーマが見つければ教官に直接連絡を取り、日程・講座内容などを相談してください③教官の内諾を得た後、兵庫教育大学長あての「派遣依頼書」を送付してください

● 交通費・謝礼などは一切無用です

● パンフレットの請求および問い合わせ先

兵庫教育大学地域交流推進センター（広報・連携担当専門職員）
〒673-1494 加東郡社町下久米942-1
☎0795-44-2053 ☎0795-44-2009

講座テーマ (全183題)

学校(学級)運営・ 経営関係

「教師と児童・生徒の人間関係」「学校の危機管理」「学校教育と教育法規」など**11題**

生徒指導関係

「自尊感情を育てる(セルフエスティム)」「学校生活充実のために」「道德教育(特にモラルジレンマ授業の進め方、発達の評定)」など**23題**

教育評価関係

「総合的な学習の評価」「教育研究の進め方」「校内教育活動の評価支援(効果測定)」など**11題**

総合的な 学習の時間関係

「文芸に表現された自然の話」「エネルギー教育に関連した講演、教材開発の指導・助言」「総合的な学習の歴史的
位置づけ」など**25題**

教科内容関係

「理科(特に物理分野関連)の講演、学習の助言」「コンピュータを教育に生かす」「幼児の保育内容について」など**44題**

教科指導関係

「国語学習の道案内」「理科(特に第一分野関連)の教材開発、指導・助言」「知識の構造化」をもとにした学習指導」など**32題**

その他

「感覚・感性の生活学」「物質の究極構造と宇宙のなりたち」「クリティカルシンキング-問いを立てる姿勢とスキル-」など**37題**

Books

「或る『小倉日記』伝」

松本清張著 新潮文庫

推薦人：河野智文(言語系教育講座)

対象と定めたテーマに粘り強く接近していく、その過程は人の心をとらえ、成果もまた、多くの場合高い評価を得る。本編の主人公もまた、そうした探究者のひとりだ。探究にかけた熱意が必ずしも報われるとは限らないところに切なさをおぼえるが、単なる偉人伝を推さなかつた意図は、そこにもある。成功が約束された努力なら誰だってするに決まっているではないか。

本書は「傑作短編集(一)」として編集されており、表題以外の作品のいくつかにも本編に通じるテーマを感じとってもらえると思う。本編を入り口として、作者自身の方法論にも通じる探究の姿勢に導かれ、清張世界の広がりを感じてもらえればとも思う。その場のふとした思いつきは時に「ひらめき」とよばれて、好評を博することもあるけれど、じっくりと手間をかけて追究した成果のもつ重みも、ぜひ実感してほしい。



附属図書館で見つけた おすすめの1冊

「大人養成講座」

石原社一郎著 ひさうちみちお絵
全日本大人養成学会監修 扶桑社

推薦人：宮元博章(教育基礎講座)

我々がいつの間にか身に付けてきた、あるいは身に付けていない人は「子供」とか「非常識」とか呼ばれたりする人間関係の暗黙のお約束。そのお約束に従うことで人々が相互に保障し合おうとするせせこましい自尊心や安心感を皮肉たっぷりの筆致でほじくり返し、首筋がかゆくなるほど赤裸々に意識化し、定式化していくのが本書の醍醐味である。こうして白日の下にさらされたヒトの生態は、滑稽で、ちょっぴり衰しかったりする。だが、「大人」は決して否定されるべきものではなく、最終的に自分はどこまで「大人」たるべきか、という自己のスタンスを問いかねられることになる。

また、本書は社会学もしくは社会心理学の書としても読むことができる。日常の当たり前の現象や、我々の行動、思考、感情のパターンを認識し、ダイナミックな状況を的確に記述し、その底にあるメカニズムを抽出しようとする。そのセンスに目を見張るものがある。



附属施設 リレー紹介

第2回 附属発達心理 臨床研究センター



案内人
上地安昭
センター長



附属発達心理臨床研究センターは、幼児、児童生徒への発達心理臨床的指導と援助に関する教育研究を推進しており、5人の臨床心理学専門のスタッフが配置された全国でも有数の心理臨床の専門研究機関です。センターへは、近隣の子どもやその保護者が相談援助を求めて常時来室しています。また、大学院生も心理臨床の実習訓練のためにセンターの教育研究と相談活動に参加しています。

また、兵庫県立教育研修所・心

の教育総合センターと連携して、「心の教育授業実践開発研究」や「ストレスマネジメント教育」などの研究も推進しています。

センターの教育相談活動についてご案内します。

- 教育相談の内容
- ①発達相談：知的、運動、言語、学習、行動などの障害について
- ②心理相談：いじめ、不登校、非行、緘黙、夜尿、チックなどについて
- ③被害相談：自然災害、事件、事故、いじめ、虐待などによる心の傷を癒すことについて
- 教育相談の受け付け

相談料は無料です。



▲センターのスタッフ



予約制で、事前に電話予約が必要です。

予約の受付：10時30分～12時、13時～16時30分

☎0795・44・2285

なお、相談は幼児、児童生徒、保護者や家族、教師や教育関係者、兵庫教育大学の関係者を対象としています。どうぞご利用ください。

卒業生・修了生からのメッセージ

Messages From OB&OG



葛飾区立柴又小学校教諭
石田美香

平成12年度学校教育学部
教科・領域教育専修社会系専修コース卒業

教師になって2年目、子どもの成長がこんなにうれしいものとは思いませんでした。日ごろ、子どもとの時間を少しでも多く共有し、子どもと一番身近なところでかかわっていくよう努めています。その中で、大学で学んだ「理論」というものが大切だと感じる事が多々あります。実践を裏打ちする理論の重要性を身を持って感じます。今後も自分本位な考えから実践するのではなく、理論に立ち返りながら子どもたちとかわかっていきたいと思います。



神戸市立
高津橋小学校音楽専科教諭
平林真喜子

平成11年度大学院修士課程
教科・領域教育専攻芸術系コース修了

音楽会の練習の真っ最中。この時期、音楽的にぐんぐん伸びる子どもはたくさんいますが、集団の中に埋もれて自分を十分に表現できない子どもも数多くいます。同僚と何度も話し合い、「うまい演奏」の以前に「子ども一人ひとりの心が動く演奏」を引き出せるような支援・指導を模索することを確認し合いました。大学院での講義や論文研究を通して実感した「オンリー・ワン」の大切さと仲間とともに創造する楽しさを子どもたちに強く伝えたいです。



京都短期大学助教授
矢栲みどり

平成12年度大学院博士課程
教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座修了

大学院では、生理活性脂質であるセラミドの微量定量法の確立に取り組みました。研究を進める中、これまであたかも真実のように講義していた内容は既存の測定方法の範囲内での真実であり、新しい測定方法が確立すればキャベツの皮が一枚めくれるようにまた一歩真実に近づくとこの事実を気付かされたことは大きな収穫でした。また、研究に限界を感じていた私に、研究の方向性をさりげなく指導してくれた先生方には深く感謝しています。

Campus Topics

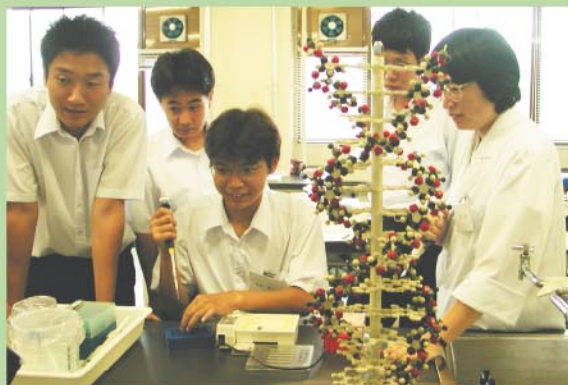
キャンパス・トピックス

2002.7～12

科学技術・理科学習プログラムを実施 高校生が遺伝子実験に挑戦

8月27日(火)、29日(木)の2日間にわたり「DNAって何？」をテーマに「科学技術・理科学習プログラム」を実施。県立尼崎小田高等学校の2年生6人が兵庫教育大学を訪れました。このプログラムは文部科学省が推進する「科学技術・理科大好きプラン」の一環として、高校生が大学や研究所などに出向き専門的な装置や設備を使って、高校では困難な実験を直接体験し、自然科学などに対する理解を深めようとするものです。

生徒たちは、自然系教育講座の渥美茂明教授、笠原恵助手の指導で分子生物学を学習。細菌の遺伝子が大腸菌に取り込まれた後、切断するなどの実験をしました。生徒たちは「遺伝子実験は神秘的で、驚きがたくさん。でも使い方には注意しないと」と話し、実験に目を輝かせていました。



30日
◎講演会「今を創る一漆芸家の立場から」

11月

1日
◎講演会「認知言語学からみた言葉と心のメカニズム」
8日～11日
◎公開講座「絵画制作」(全4回)
16日～17日
◎大学祭「嬉望祭」
23日
◎平成15年度附属幼稚園入園応募者書類審査発表抽選会

12月

1日
◎平成15年度大学院修士課程第2次募集入学者選抜試験

29日
◎附属小学校うれしのカーニバル

10月

1日
◎創立記念日
2日
◎学校教育研究センタープロジェクト研究発表会
5日～11月2日
◎公開講座「ピアノを弾こう!」(全5回)
10日
◎韓国仁川教育大学来訪
18日
◎講演会「『知の営み』の危機に教育の転機を求めて」
19日～12月21日
◎公開講座「発達に気になる子どもの家庭療育の方法」(全9回)
20日
◎附属幼稚園運動会

プログラムの実施

9月

7日～10月5日
◎公開講座「陶芸入門」(全4回)
10日
◎平成14年度第1回運営諮問会議
14日
◎附属中学校体育祭
14日～11月16日
◎大学連携ひょうご講座「現代子育て考—すこやかに、豊かに—」(全10回)
20日～11月8日
◎公開講座「理科実験・観察のカンドコロ」(全8回)
25日
◎前期末学部卒業・大学院(修士)修了者学位記授与式
◎論文提出による博士の学位記授与式

体験学習
29日～8月2日
◎平成14年度新産業技術等指導者養成講習「高等学校・家庭」
29日～8月21日
◎平成14年度学校図書館司書教諭講習
29日～8月30日
◎平成14年度兵庫県・神戸市教育職員免許法認定講習

8月

5日～9日
◎平成14年度附属学校における初任者研修等に係る宿泊研修
12日
◎中国華南師範大学来訪
24日～25日
◎平成15年度大学院修士課程入学者選抜試験
27日・29日
◎科学技術・理科学習プ

7月

1日
◎韓国大邱教育大学来訪
2日
◎中国海南師範学院来訪
3日
◎兵庫教育大学・杜町連携協力連絡協議会(第2回)
6日～7月27日
◎公開講座「現職教員の実技指導能力を向上させるための講座」(全4回)
12日
◎大学・高等学校教育研究懇談会
13日～11月9日
◎公開講座「スポーツが好きな親子教室」(全10回)
27日
◎大学説明会
◎附属小学校で「模型飛行機を活用したものづくり

平成14年度第1回運営諮問会議を 神戸で開催

9月10日(火)、新神戸オリエンタルホテルで「平成14年度第1回運営諮問会議」を開催しました。梶田毅一議長(京都ノートルダム女子大学長)の司会進行で、議題「兵庫教育大学21世紀新構想大学プランについて」を審議しました。会議では、石古勲元社町長、石山靖男(株)神戸新聞社常務取締役、小西龍作(日本臓器製薬(株)代表取締役社長、佐々木正峰独立行政法人国立科学博物館長、高倉翔明海大長、武田政義兵庫県教育長、野上智行神戸大長)の各委員から、修士課程の修学形態を中心に今後の大学運営の基盤強化につながる幅広い意見、提言が寄せられました。最後に、兵庫教育大学の国立大学法人化準備体制、検討状況などについて報告されました。

学校教育研究センター 「プロジェクト研究発表会」の開催

10月2日(水)、附属図書館ライブラリーホールで、学校教育研究センターの「プロジェクト研究発表会」を開催しました。今年度から新体制でスタートした3部門のうち、学校問題解決研究部門の古川雅文主任からは「学校における児童生徒の学習効果を上げるための総合的研究」、情報メディア教育研究部門の成田滋主任からは「問題解決に要求される『確かな学力』を育成するための情報通信技術の応用と教師の情報活用力量形成に関する研究」、実地教育支援研究部門の上西一郎主任からは「子どもの自然体験活動において学校教員に求められる指導資質能力に関する研究」の発表がありました。引き続き、田中博之大阪教育大学助教授による「『確かな学力』を育成する総合的な学習と情報教育の役割」と題した特別講演が行われ、教育委員会関係者を含む多くの参加者たちは熱心に聴き入っていました。



兵庫教育大学からのお知らせ

☎=問い合わせ先

◎平成15年度学生等募集

☆学校教育学部

◎前・後期日程等出願期間

平成15年1月27日(月)～2月5日(水)

◎前期日程・帰国子女特別選抜試験日

平成15年2月25日(火)・26日(水)

◎私費外国人留学生特別選抜試験日

平成15年2月27日(木)

◎後期日程試験日

平成15年3月12日(水)

☆連合学校教育学研究科(大学院博士課程)

◎出願期間

平成14年12月24日(火)～平成15年1月7日(火)

◎試験日

平成15年2月16日(日)

※上記のほか、科目等履修生(学部、大学院修士課程、大学院博士課程)、研究生、連合学校教育学研究科研究生の募集もしています。

☎入学主幹室 ☎0795・44・2067

☆附属小学校

◎募集人員

108人(うち約60人程度は附属幼稚園の修了者)

◎出願期間

平成15年1月6日(月)～10日(金)

◎書類審査結果発表および抽選会

平成15年1月20日(月)

☎附属小学校事務室 ☎0795・40・2218

☆附属中学校

◎募集人員

120人(うち約90人程度は附属小学校の卒業生)

◎出願期間

平成15年1月14日(火)～17日(金)

◎書類審査結果発表および抽選会

平成15年1月28日(火)

☎附属中学校事務室 ☎0795・40・2224

◎教育相談

大学院神戸サテライト心理教育相談室では、臨床心理士の資格を持つ教官や児童精神科医が中心となって、大学院生とともに、主に学校や家庭において心理的援助を必要とする子どもとその家族を対象に、こころの悩みや発達についての相談に応じます(無料)。また、子どもたちへの対応に悩んでいる教育関係者へのコンサルテーションにも積極的に取り組んでいきます。

◎相談の受付

電話予約が必要。受付時間は月曜～金曜(水曜を除く)の14:00～19:00

☎大学院神戸サテライト心理教育相談室 ☎078・321・1432(神戸市中央区北長狭通4-7-30 ハルモア学院5F)

◎公開講座

☆「兵庫一人物と風土」

兵庫県出身の偉人、郷土の風土性などを講話とスライドで多角的に学びます。ふるさとを再発見できる機会になります。

◎場所

附属図書館ライブラリーホールなど

◎開講日

平成15年2月1日～3月1日の土曜日(全5回)

◎時間

13:30～15:00

◎定員

50人(一般対象)

◎受講料

5,800円

◎参加受付

平成15年1月7日(火)～17日(金)

※来年度も小学生、現職教員、一般市民を対象に公開講座を実施します。開設講座は平成15年4月上旬に公表予定です。

☎庶務課広報・連携担当専門職員 ☎0795・44・2053

◎演奏会

☆芸術系音楽分野定期演奏会

学生と教官が演奏します(入場無料)。

◎場所

兵庫教育大学講堂

◎開催日

平成15年2月8日(土)

☆学部卒業演奏会

音楽分野の学生が、各々の専門の楽器で4年間の研究成果を披露します(入場無料)。

◎場所

兵庫教育大学講堂

◎開催日

平成15年2月22日(土)

☎芸術棟事務室 ☎0795・44・2249または森川研究室 ☎0795・44・2263

◎第4回兵庫教育大学美術展

学部生の卒業制作と大学院生、教員による制作展です(入場無料)。

◎場所

西宮市立市民ギャラリー

◎開催日

平成15年3月11日(火)～16日(日)

☎芸術棟事務室 ☎0795・44・2249または森岡研究室 ☎0795・44・2241

◎附属小学校研究発表会

研究主題「学びをひろくカリキュラムの創造(2年次)一子どもの学びを促す『指導と評価』の構造化」
1日目…授業公開、分科会(総合的な学習・英語学習・幼少連携)

2日目…授業公開、分科会(各教科・道徳)、講演(講師:寺脇研(文化庁文化部長))

◎場所

附属小学校

◎開催日

平成15年1月30日(木)・31日(金)

☎附属小学校 ☎0795・40・2216 ☎0795・40・2219 <http://www.school.hyogo-u.ac.jp/element/index.htm>

◎講演会

☆シャロン校長講演会

◎講師

シャロン・ホロース(英国ブラムクロフト小学校長)

◎開催日

平成15年1月下旬(場所・時間は未定)

※NHKの特別番組「イギリス 授業崩壊からの脱出」で、学校教育関係者に強烈な印象を与えた英国カルバートン小学校元校長のシャロン・ホロースさん(現ブラムクロフト小学校長)が来年1月下旬に来学。「学校改革」に関する講演を予定しています。日程、講演内容については、後日パンフレットなどでお知らせします。

☎学校教育研究センター事務室 ☎0795・40・2202

☆「我が国の障害児教育の新しい動向」

◎講師

横田雅史(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官)

◎場所

附属図書館ライブラリーホール

◎開催日

平成15年1月22日(水)

◎時間

13:00～15:00

☎庶務課研究推進担当専門職員 ☎0795・44・2418

速報—教員就職率が大幅にアップ

厳しい状況の中、兵庫教育大学の平成14年3月学部卒業者の教員就職率が68.4%(9月30日現在)で、昨年の57.1%(全国2位)、一昨年の50.5%(全国1位)を大幅に上回りました。国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の教員就職率ランキングについては、文部科学省から近々公表される予定です。

Hyogo University of Teacher Education

編集後記

新教育課程の実施で幕を開けた学校教育現場は、総合的な学習の時間、評価の見直し、基礎・基本の充実、心の教育など教育改革のあらゆるキーワードのオンパレードで、子どもたちも先生もしなやかな表情とは裏腹に、心の中で「お疲れさま」を連発している気がします。実際、教育現場でも先生にゆとりがないという校長先生の声をよく聞きます。ある県の小中学校で病気休職の教職員の約4割が精神疾患であるらしく、子どもたちの心のケア同様、現場で苦悩する教員のケアも必要なことを示しています。国際社会においてもさまざまな場面でメンタルヘルスが求められようとしているように思えてなりません。(ふ)

◎あなたの声をお聞かせください

「教育子午線」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。ご意見、ご感想、ご希望などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学庶務課広報・連携担当専門職員

☎0795・44・2053 ☎0795・44・2009 E-mail office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

Kyoiku-Shigosen

教育子午線

第3号 2002年12月発行

発行/兵庫教育大学 広報誌編集委員会

URL <http://www.hyogo-u.ac.jp>

編集協力/(株)神戸新聞マーケティングセンター